

平成 18 年度協働事業負担金実績報告書

平成 1 9 年 4 月 2 0 日

神 奈 川 県 知 事 殿

住 所 神奈川県横浜市西区北幸 1-11-5
横浜 S T ビル地下 1 階
郵便番号 220-0004
名 称 特定非営利活動法人 S T スポット横浜
代表者氏名 理事長 曾田修司

平成 1 8 年 4 月 1 日付け県サ第 1 0 0 5 号をもって交付決定を受けた協働事業負担金に係る事業の実績を次のとおり報告します。

1 事業実績

特定非営利活動法人 S T スポット横浜は、芸術機関としての実績や経験を活かし、神奈川県との協働事業に取り組んだ。

「アーティストによる授業実施事業」では、今年度から新たに取組んだ小学校・養護学校と、中学校および県立高等学校あわせて新規 1 1 校・継続 5 校の 1 6 校 1 7 科目に対して計 6 7 回の授業を実施した。受講した児童・生徒ののべ人数は 1 8 6 1 名となった。

「教育関係者への普及事業」では、神奈川県立総合教育センターの教科等専門研修事業「美術の題材研究 3 -現代美術作家に学ぶ表現一」と連携し研修を実施し、県内の高等学校および小・中学校、養護学校の教員の参加を得た。

「調査研究事業」では、文化庁・平成 1 8 年度文化ボランティア推進モデル事業の一環として、アートと学校教育の連携に関する調査研究を行い、全国のアート N P O 等に対して独自の調査研究活動を行った。

「フォーラム事業」では、2 月 3 日にシンポジウム「アートと学校教育の連携を考える」を、同種事業に取り組んでいる横浜市市民活力推進局ほかとの共催により実施し、参加者 1 9 5 名に対して、「アーティストによる授業実施事業」の事例報告とパネリストによる課題の抽出と議論、会場からの質疑応答を行った。

2 収支実績

(単位 : 円)

I 収入の部	II 支出の部
事業収入 60,500	事業(1-1) : アーティストによる授業実施事業 2,934,661
補助金収入 8,675,000	事業(1-2) : 教育関係者への普及事業 161,824
寄付金収入 300,000	事業(2-1) : 調査研究事業 1,226,429
助成金 1,428,646	事業(2-2) : フォーラム事業 667,127
雑収入 856	企画運営費 5,474,961
	固定資産取得費 0
収入合計 10,465,002	支出合計 10,465,002

協働事業評価・報告書【団体用】

事業名	アートを活用した新しい教育活動の構築事業
団体名	特定非営利活動法人STスポット横浜
協働の相手方	県民部文化課、教育局子ども教育支援課、教育局高校教育課
事業期間	平成18年4月1日から平成19年3月31日まで

1 協働事業の進捗状況について

(1) 事業目標の達成度について

ア 協働事業の進捗状況を見て、所期の目的を達成することができましたか。 はい いいえ
また、その達成度は何%くらいですか。 (100%)

イ 事業の受益者の満足を得ることができましたか。 はい いいえ
「はい」と答えた方は、受益者の満足度を調べるためにどのようなことをしたかを下欄に記入してください。

<p>〔事業1-1：アーティストによる授業実施事業〕アーティストによる授業を実施した後に、児童・生徒に対する調査（レポート提出依頼）などを適宜行った。また、各授業後の振り返りの時間に、担当教員や学校長に対して事業に対する満足度を調査した。</p> <p>〔事業1-2：教育関係者への普及事業〕実施後にアンケート調査を行い『講義とデッサンの実践が結びついた有意義な講座だった』『美術の考え方として必要なものを学んだ』などの反応があった。</p> <p>〔事業2-2：フォーラム事業〕実施後にアンケート調査を行い『非常に啓発的な企画。学校教育を基本的な所から見直す必要があるということがよくわかり、それを地域社会全体として子どもの教育に取り組むきっかけになることを望みます』（60代男性、NPO職員）『アートと学校の連携は必要だが、教員の質の高い意識がより必要だと感じました』（20代女性、学校教職員）などといった感想があった。</p>
--

(2) 個別事業ごとの進捗状況について

個別事業ごとに、実績（目標の達成状況）及びその成果を下の左側の欄に、その実績及び成果に対する評価、またなぜそう評価したかの考え方を併せて右側の欄に、それぞれ記入してください。

事業 1-1	<p>〔事業名〕アーティストによる授業実施事業</p> <p>〔実績〕今年度から新たに取組む県内の小学校・養護学校、および中学校、高等学校において、アーティストによる授業を実施した（詳細次頁）。</p> <p>□授業校数……………16校</p> <p>□実施科目数……………17科目</p> <p>□実施授業数……………67回</p> <p>□受講者のべ人数……………1,861名</p> <p>□授業（学校）見学……………20回</p> <p>□教員との振り返り時間……………67時間</p> <p>□アーティスト講師・アシスタント総数…のべ81人</p> <p>〔成果〕現場の教員の声を聞き各学校のニーズを把握した上で、教員・アーティスト・コーディネーターの三者間で問題意識を共有し、適材のアーティストによる授業を実施できた。</p>	<p>〔実績及び成果に対する評価〕高い成果を上げることができた。</p> <p>〔評価の考え方〕昨年度実施した中学校・高等学校での7校（9科目）から、16校（17科目）へ大幅に実施校を増やすことができた。とくにこれまで未実施だった小学校および養護学校での授業を実施することができた。加えて、授業科目が『音楽』『美術』『総合的な学習の時間』等多様な内容へ拡大できた点は、今後の事業展開を考える上で重要である。さらに、継続実施校のみならず新規実施校に対しても、年度当初から、教員との打合せ、授業見学等学校側とのコーディネート作業を積極的且つ丁寧に進め授業を完了することができた。</p>
-----------	---	---

事業 1-1 の実施一覧

	学校名	所在地	科目名	実施内容	実施日程	実施回数	のべ履修者	担当アーティスト
高校	神奈川県立逗葉	逗子市	音楽Ⅰ	ストロー笛を使って音を楽しむ	9月11日 ～9月14日	6	330	池田邦太郎 (音楽家)
	神奈川県立向の岡工業	川崎市多摩区	音楽Ⅰ	人前での自己表現	1月23日	3	240	平尾信幸 (音楽家)
	神奈川県立大清水	藤沢市	美術Ⅲ	コンテンポラリーダンスと現代美術	11月22日 ～11月29日	2	8	ほうほう堂 (ダンサー)
	神奈川県立厚木商業	厚木市	発達と保育	子どもと遊ぶということ	11月10日	1	20	柏木陽 (演出家)
	神奈川県立藤沢総合	藤沢市	演劇	(1)演劇的表現(2)劇創作	7月12日 ～7月19日	2	22	中野成樹 (劇作家)
			レッツ・コミュニケーション！	コミュニケーションスキルを学ぶ	5月26日 ～6月23日	2	20	横山仁一 (演出家)
	神奈川県立麻生総合	川崎市麻生区	演劇基礎	演劇表現	9月27日 ～10月18日	3	33	明神慈 (演出家)
	神奈川県立金沢総合	横浜市金沢区	演劇入門	演劇表現	8月30日 ～9月20日	3	33	明神慈 (演出家)
	神奈川県立横浜清陵総合	横浜市南区	演劇表現	身体表現活動	11月16日	1	20	上村なおか (ダンサー)
	神奈川県立鶴見総合	横浜市鶴見区	演劇Ⅰ	身体感覚トレーニング	6月14日 ～6月21日	2	40	倉品淳子 (俳優)
神奈川県立横浜桜陽	横浜市戸塚区	演劇体験Ⅱ	創作劇上演指導	12月4日 ～1月22日	4	120	柏木陽 (演出家)	
小学校	横浜市立原	横浜市瀬谷区	総合学習(5年)	簡単な演劇の上演指導	9月26日 ～1月27日	5	155	中野成樹 (劇作家)
	相模原市立桜台	相模原市	図画工作・総合学習(4年)	造形作家の作品紹介と製作	11月1日 ～11月14日	9	252	井上尚子 (美術家)
	二宮町立山西	二宮町	総合学習(6年)	卒業生発表会の演出指導	9月28日 ～12月12日	14	448	ほうほう堂 (ダンサー)
中学校	平塚市立春日野	平塚市	選択美術(3年)	現代美術について自作作品の紹介	11月21日	1	35	井上尚子 (美術家)
	藤沢市立第一	藤沢市	選択国語(2年)	文章表現	6月27日 ～9月26日	5	25	山本繁 (NPO代表)
養護	神奈川県立中原	川崎市中原区	総合学習(高等部)	絵画作品とダンス	10月17日 ～12月11日	4	60	手塚夏子 (ダンサー)

<p>事業 1-2</p>	<p>〔事業名〕教育関係者への普及事業 〔実績〕児童・生徒の夏期休暇期間を活用し、『先生のためのワークショップ』を開催した。今年度は県立総合教育センター主催の教科等専門研修事業に協力するかたちで「美術の題材研究3～現代美術作家に学ぶ表現～」を実施した。 ■開催日：平成18年8月4日 ■開催場所：県立総合教育センター ■講師：渡邊晃一(福島大学助教授) ■参加者：25名(高校教員=4名、中学校教員=1名、小学校教員=7名、養護学校教員=13名) ■内容：講師作品紹介／「身体」とは何か？／「美術解剖学」のワークショップ 〔成果〕参加者は、子どもの想像力、表現力、コミュニケーション能力を育む、アートを活用した教育活動の知識と技能を得ることができた(参加者の数値評価平均値は3.5=4段階評価)。 また、現代美術作家による表現の指導から、言葉、身体、造形で実践するコミュニケーションを学び、図工や美術の表現活動の指導力向上を図ることができた(同評価平均値は3.4)。</p>	<p>〔実績及び成果に対する評価〕県立総合教育センターに事業協力し、研修講座のひとつとして開催できたことにより、昨年度を上回る参加者に対して、効果的に事業を展開できた。 〔評価の考え方〕応募者が、小・中学校、高等学校、養護学校といった学校種別の点で多彩となり、また、年齢層の幅が拡大していることから、事業の着実な浸透が確認できた。 特に、県立総合教育センターとの連携が始まったことにより、図工や美術の授業の中で、アートを活用した新しい教育活動の普及を促進する確実な手ごたえを感じている。今年度の事業協力が評価され、同センターとは19年度も講座の継続開催が予定されている。</p>
<p>事業 2-1</p>	<p>〔事業名〕調査研究事業 〔実績〕 (1) 学校へのヒアリング調査等 ・「表現分野に係る講師要望調査」を実施した上で、アーティスト講師派遣に関する学校へのヒアリング調査を行った。 □調査対象教員……………21人 □調査時期……………4月～6月 ・事業1-1の実施校の対象児童・生徒に対して、事業終了後にアンケート調査を行った。 □調査対象児童・生徒…372人 □調査時期……………7月～3月 (2) 平成18年度の文化庁「文化ボランティア推進モデル事業」と連携し、アートと学校教育の連携に関する調査研究を実施した。調査対象は、アートサポートふくおか(福岡県)、子どもとアーティストの出会い(京都府)、鳥取県文化振興財団(鳥取県)、NPO法人演劇百貨店(東京都)、NPO法人S-A-I-R(北海道)など。</p>	<p>〔実績及び成果に対する評価〕今後の事業展開や長期的なビジョンの検討に活かすことができた。 〔評価の考え方〕 (1) 学校へのヒアリング調査時の要望や意見、事業終了後のアンケート結果を重視した結果、学校教育現場の状況および本事業に対するニーズ把握を多面的に捉えることができた。 (2) アートと学校教育の連携に関する取組を調査研究し、同種の事業の成果や課題を整理したことによって、教員・アーティスト・コーディネーターの三者間の協働の仕組みづくりの構築に向けて課題等を検討できた。</p>

	<p>また「アートと学校教育の連携に関する調査研究報告書」を作成した。</p> <p>〔成果〕アート教育事業に関連する各種調査を総合的に判断し、今後の事業全般の方向性を確認することができた。</p>	
事業 2-2	<p>〔事業名〕フォーラム事業</p> <p>〔実績〕平成19年2月にシンポジウム『アートと学校教育の連携を考える』を、BankART1929で開催した。今年度からは「横浜市芸術文化教育プログラム推進事業」を実施している横浜市市民活力推進局文化振興課、財団法人横浜市芸術文化振興財団、横浜市教育委員会が事業の趣旨に賛同し、共催者・後援者として事業に参加した。</p> <p>この様子は、総合教育誌『悠』(2007年3月号、ぎょうせい)に掲載された。</p> <p>〔成果〕アーティストによる授業実施事業の事例報告を行い、現場の詳細な様子を参加者に伝えることができた。また、今後の事業展開に関して展望を開くことができた。</p>	<p>〔実績及び成果に対する評価〕参加者の好評を得ることができた。</p> <p>〔評価の考え方〕とくに今年度は、新たなパートナーとして横浜市市民活力推進局文化振興課等が本個別事業に加わったため、昨年度にも増してアートを活用した教育活動に関わる団体や個人の注目が集まった。19年度も、他の個別事業との相乗効果をもたらす内容での実施を前提に、本事業の開催に向けて検討を続けており、新たなネットワークの形成を促進する要となることが期待できる。</p>

(3) 社会的認知の獲得

協働事業の実施にあたり、どのようなメディアを活用して事業のPRをしたか、その代表的事例を1つ下の左の欄に記入し、また、協働事業の実施により、事業の社会的認知度が向上したかどうかを、右の欄にその理由と併せて記入してください。

<p>〔PRの事例〕</p> <p>「文化芸術の振興に関する基本的な方針」(平成14年閣議決定)の見直しに関して、文化芸術懇談会(平成18年6月13日開催、文化庁・神奈川県・横浜市主催)において、意見を求められた。団体としては、事業のPRを含め、同種の事業を全国でも実践するために必要な施策などを提案した。その結果、「文化芸術の振興に関する基本的な方針の見直しについて(中間まとめ)」(平成18年7月26日、文化庁文化審議会文化政策部会)において「文化芸術コーディネーター」の重要性などが盛り込まれるに至った。</p> <p>また、平成18年度県民功労者表彰のボランティア活動部門において、多年にわたり創造的な文化芸術活動を発信する環境づくりを支援したことが評価され、表彰を受けた。</p>	<p>〔社会的認知度の向上〕</p> <p>各地の公共ホールでの職員向けの研修事業で、本事業の概要説明を行うことも増えており(社団法人日本芸能実演家団体協議会の連続シンポジウム「表現教育の現在と未来～実演家と教師のよりよき協働をめざして～」など)、全国的にも本事業の先駆性が評価され、社会的な認知が高まってきたことを実感している。</p> <p>県内においては、事業を実施する学校にとどまらず、小・中学校、高等学校、養護学校などの教員から本事業に対する期待の声が多く寄せられている。</p>
---	---

(4) 新たなネットワークの構築

協働事業の実施により、新しいネットワークが構築されたとしたら、その内容を具体的に下の左の欄に記入し、このネットワークを今後の協働事業の展開にどのように活かそうと考えているかを右の欄に記入してください。(新しいネットワークの構築がなかった場合、この欄への記入は不要です。)

<p>〔ネットワークの具体的内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 教育分野……神奈川県立総合教育センターをはじめとした、アートと学校教育の連携を視野に入れた活動を行っている県内外の教育支援機関およびNPOとのネットワーク。また、横浜市高等学校演劇連盟など、教員が主導となった組織とのネットワーク。 ◆ 文化芸術分野……アートを活用した教育・普及活動を積極的に行っている神奈川県立近代美術館や、財団法人横浜市芸術文化振興財団をはじめ、県内外の文化芸術団体の教育普及担当者など、各文化施設とのネットワーク。また、地域の文化活動に根ざしたネットワーク。文化や教育分野のメセナ活動を展開してきた一般企業とのネットワーク。 ◆ NPO・人材活用などの分野……神奈川県自治総合研究センターや、かながわボランティア活動推進基金21協働会議など、県内の各組織やNPO、ボランティア団体とのネットワーク。 	<p>〔ネットワークの活用〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 学校とアートをつなぐ団体とのネットワークを通して、文化芸術領域における教育力の存在を広く訴えていきたい。 ◆ 地域文化施設のネットワークを利用し、芸術文化団体と学校が連携し、地域の教育力を学校現場に活かせる環境づくりへつなげようと考えている。 ◆ 県内外の教育機関・団体との連携を通じ、事業成果の共同研究などを行い、アートを活用した教育活動に対する理解促進及び実践の担い手育成推進につなげたい。
--	--

(5) 県の施策等への影響

協働事業の実施により、職員のNPOに対する認識の変化や、県の施策に対する影響があったと思われることがあれば、その内容を具体的に下の左の欄に記入し、それが今後の協働事業の継続・発展にどのような影響があると考えているかを下の右の欄に記入してください。(認識の変化や影響はなかったと思われる場合は、この欄への記入は不要です。)

<p>〔影響の具体的内容〕 平成18年10月30日に神奈川県議会人材活用特別委員会県内調査(会場:STスポット)に協力すると同時に、平成18年10月16日~20日に神奈川県自治総合研究センターによるNPO活動体験派遣研修に係る研修生の受入れを行ったことで、今後のNPO・ボランティア等の活用等に関する施策推進に寄与できた。</p> <p>また、神奈川県立近代美術館の教育普及事業の一環として、平成18年度文部科学省委嘱事業文化体験プログラム「謎解き宝箱」が実施され(主催:湘南地域文化体験プログラム実行委員会)、STスポット横浜</p>	<p>〔事業の継続・発展への影響〕 NPO・ボランティア等の人材活用に関する視点から当事業が注目され、左記の機会を得たことを大きなチャンスととらえている。当事業の継続が県のNPO・ボランティア等の活用に関する施策と文化芸術振興施策、さらには、教育施策とも綿密に連関する可能性を、実践事例を通じて現場から提言していきたい。</p> <p>また、協働事業の実施体制を軸として県立近代美術館の教育普及事業に関する連携をすすめたことにより、学校教育と美術館の連携等、他の個別事業との相乗効果をもたらす内容でのさらなる連関および展開</p>
--	---

<p>は実行委員会の一員として、県立近代美術館を活用した教育活動の推進に尽力した。同時に、県立近代美術館との連携を強固に発展させ、近隣の逗子市教育委員会・葉山町教育委員会の教員研修会の実施に協力することができた。</p>	<p>が19年度も期待できる。</p> <p>このほか、神奈川県自治総合研究センターによる部局共同研究の19年度のテーマのひとつ「NPO等との協働の仕組づくり」について、研究チーム員として参加の打診があった。当事業の実績を基に、行政とNPO等との協働の今後の進展に寄与したいと考えている。</p>
<p>このほか、神奈川県教育委員会の学力向上推進及び特色ある県立高校づくり推進事業における特定分野の教育活動として「演劇教育」が示され、県内の芸術環境基盤整備に寄与することができた。</p>	

(6) その他

上の(3)から(5)に挙げた項目以外で、協働事業の成果として特にアピールしたいものがある場合は、下の左の欄に記入し、それが今後の協働事業の発展にどのように貢献すると考えているか、右の欄に記入してください。(特にアピールしたいものがなければ、この欄への記入は不要です。)

<p>〔成果のアピール〕横浜市が推進する「横浜市芸術文化教育プログラム推進事業」を実施している横浜市市民活力推進局文化振興課が事業の趣旨に賛同し、フォーラム事業を共催したため、来年度以降の事業展開に関して、多方面からの検討が可能となった。また、これを契機として、行政機関に対する政策提言活動も継続的に行っていききたい。</p>	<p>〔事業の発展への貢献〕今後はこれまで獲得してきたさまざまなネットワークを元に、同種の事業を行う文化芸術機関や自治体などとも連携をとり、事業の飛躍を図っていききたい。</p>
---	---

2 協働事業の管理状況について

この半年間の協働事業の進め方などに関して、次の質問に、はい、いいえでお答えください。

- ア 協働事業の進捗状況は適切に管理できていましたか。 はい いいえ
- イ 協働事業の実施に伴う収支は少なくとも月単位で整理できていましたか。 はい いいえ
- ウ 協働事業の実施に関する情報は団体の理事会等で共有されてきましたか。 はい いいえ
- エ 協働事業の実施に関する活動記録は速やかに整理するきまりになっていましたか。 はい いいえ
- オ 協働事業の実施にあたって、団体内部の役割分担は明確でしたか。 はい いいえ

上のアからオまでの項目で、「いいえ」と回答したものがあつた場合、なぜそうなっているのか見解を示し、併せて今後の解決策をお示しください。

3 県との協働についての評価

(1) この半年間の県との協働の進め方に関して、次の質問に、はい、いいえでお答えください。

- ア 協働事業の実施にあたって、団体と県とは必要な情報の共有ができていましたか。 はい いいえ
- イ 協働事業の実施にあたって、団体と県とはそれぞれの役割を果たしましたか。 はい いいえ
- ウ 全体として、団体と県とは対等の立場で協働ができましたか。 はい いいえ

どのような場合に対等と感じたか、あるいはどのような場合に対等でないと感じたか、それぞれ下の欄に記入してください。

県民部文化課、教育局高校教育課、教育局子ども教育支援課の三者と当方の異なる立場の視点を活かしつつ、事業の進め方や成果について課題を抽出し検討を重ねる場において、県と対等に協働していると感じられた。

エ 協働事業を一緒にやってよかったと思いませんか。

はい

いいえ

(2) 県との協働の取り組みについて

県と協議した役割分担に基づき行った協働の具体的な取り組み及びその成果について下の左の欄に記入し、右の欄には、その成果に対する評価を記入してください。

<p>〔協働の取り組み〕</p> <p>◆事業 1-1：アーティストによる授業実施事業</p> <p>【ST スポット横浜】県内の学校との連絡調整および授業の企画</p> <p>【文化課】ST スポット横浜と県の連絡調整（各事業共通）、授業視察</p> <p>【子ども教育支援課】小学校、中学校、養護学校との連絡調整、授業視察</p> <p>【高校教育課】新しいタイプの高校（総合学科等）を中心とした県内の高校との連絡調整、授業視察</p> <p>◆事業 1-2：教育関係者への普及事業</p> <p>【ST スポット横浜】事業内容の企画</p> <p>【子ども教育支援課・高校教育課】企画内容助言、県立総合教育センターとの橋渡し</p> <p>◆事業 2-1：調査研究事業</p> <p>【ST スポット横浜】教育・文化芸術関連の各種資料の整理及び調査研究</p> <p>【文化課】文化芸術関連の各種資料の提供</p> <p>【子ども教育支援課・高校教育課】教育関連の各種資料の提供</p> <p>◆事業 2-2：フォーラム事業</p> <p>【ST スポット横浜】事業内容の企画、共催者・後援者との連絡調整、パネリスト等との連絡調整、広報、参加者申し込み受付、会場整備</p> <p>【文化課】企画内容助言、共催者との連絡調整、広報、参加者申し込み受付、会場整備</p> <p>【子ども教育支援課・高校教育課】企画内容助言、広報、会場整備</p> <p>〔協働の成果〕</p> <p>◆事業 1-1：アーティストによる授業実施事業</p> <p>【高校教育課】【子ども教育支援課】より学校の現状について説明を受けた上で【ST スポット横浜】が新しいタイプの高校（総合学科等）を中心とした県内の各学校との連絡調整および授業の企画を立案した。企画進行中も【文化課】が随時、各課との連絡調整をはかり、事業全般の情報共有</p>	<p>〔協働の成果の評価〕県の教育委員会【子ども教育支援課】【高校教育課】および県民部【文化課】は、【ST スポット横浜】と対等の姿勢で事業実施に向きあい、月に1回の協働事業打ち合わせを軸に事業の円滑な実施に努めた。本事業を協働実施するにあたり、前向きな話し合いを重ねながら、さらなる信頼関係を築いていることが、大きな成果だと考えている。</p> <p>特に、事業 1-2 では、【子ども教育支援課・高校教育課】を通じて、県立総合教育センターに協働の成果が評価され、同センターでの実施が可能となった。</p> <p>また、【子ども教育支援課】と協働の取り組みがさらに発展し、教育局生涯学習文化財課所管の県立近代美術館との連携が可能になった。</p>
--	--

<p>の核となった。授業実施にあたっては、各学校との協議・調整を【高校教育課】【子ども教育支援課】がサポートした。</p> <p>◆事業 1-2：教育関係者への普及事業</p> <p>【子ども教育支援課】および【高校教育課】が、県立総合教育センターへ橋渡しし【ST スポット横浜】が事業の企画を立案し、アーティストとの連絡調整を行い、県立総合教育センターに協力し実施した。</p> <p>◆事業 2-1：調査研究事業</p> <p>【ST スポット横浜】の求めに応じて【子ども教育支援課】【高校教育課】が本事業のニーズ調査（「表現分野に係る講師要望調査」）を実施した。また、【文化課】【子ども教育支援課】【高校教育課】は関連の各種資料を提供した。それを受けて【ST スポット横浜】が各種調査研究（「アーティスト講師派遣に関する学校へのヒアリング調査」）を実施した。</p> <p>また平成 18 年度の文化庁「文化ボランティア推進モデル事業」と連携し、【ST スポット横浜】がアートと学校教育の連携に関する調査研究とその実践として学校への派遣アーティスト及びコーディネーターの養成を目指す事業を行った。</p> <p>◆事業 2-2：フォーラム事業</p> <p>【文化課】が、横浜市市民活力推進局文化振興課へ橋渡しし【ST スポット横浜】が事業の企画を立案し、共催の横浜市市民活力推進局文化振興課、財団法人横浜市芸術文化振興財団との連絡調整を行った。同時に【ST スポット横浜】が横浜市教育委員会に後援申請をし、パネリスト等との連絡調整を行った。シンポジウム当日は、【ST スポット横浜】【文化課】【子ども教育支援課】および【高校教育課】がともに、会場整備やパネリスト、参加者の対応にあたった。</p>	
--	--

4 協働事業を継続する上での課題とその対応策

アートを活用した新しい教育活動の人材養成、派遣、普及を担う持続可能な体制づくり(=プラットフォームの構築)を目指し、県民部文化課、教育局子ども教育支援課、教育局高校教育課と、断続的に今後も議論を深めていきたい。

また、同種の事業「横浜市芸術文化教育プログラム推進事業」を実施する横浜市市民活力推進局文化振興課と連携をし、今後の事業の普及拡大を図りたい。

5 負担金事業終了後の当該協働事業の見通し

5 年間にわたる行政との連携をもとに、アートを活用した新しい教育活動に関するさまざまな情報提供をはじめ、人材養成、派遣、普及を担う持続可能なシステム体系を整備した上で、本事業の中核となるアーティストによる授業実施事業のシステムを持続させるための調整機関としての役割を果たしていきたい。